

クラス	304	担当教員	瀬地山 葉矢
テーマ	臨床心理学的視点から親と子・家族を考える		
著書・論文	著書：「幼児期の子どもへの支援 ―巡回指導における保育士との連携―」『心理臨床における多職種との連携と協働―つなぎ手としての心理士をめざして―』本城秀次監修 岩崎学術出版社、2015年 他		
研究課題等	論文：「母親の内的ワーキングモデルは子どもへの愛情に影響するか？」心理臨床学研究 第33巻第2号、2015年、共著 他		
	研究課題： 親と子の関係性の発達、乳幼児とその家族への臨床心理学的介入、子育て支援		
ゼミナール概要			
キーワード：親子、関係性の発達、愛着、子育て支援、臨床心理学			
<p>目的と内容</p> <p>私たちは、「親子関係」、「家族関係」という言葉をよく見聞きしますが、臨床心理学的にそれらを理解するには、親子・家族それぞれに個性的な関係性のなかで起こる出来事他に、個人がそれらをどのように体験し、意味づけるかについての細やかな観察と考察が求められます。</p> <p>ゼミでは、①親や他者との関係性を基盤にした子どもの発達、②親および家族の発達、③親と子・家族が抱える問題や心理的課題、④子育て支援や①～③に対する臨床心理学的支援や介入などをテーマに、それらについて臨床心理学的視点から深く考え、学ぶことを目的としています。またゼミの仲間とのディスカッション、関連文献の輪読、個人の卒業研究などを通して、自分の考えを相手に伝えること、文章にしてまとめる力をつけること、そして研究を進めていく際に必要な手続きの修得をめざします。</p>			
<p>授業計画等</p> <p><3年次></p> <p>3年次前期は、グループでの作業および活動が中心です。今年の3年生は、2グループに分かれて「幼少期の親子関係が大学生の家庭展望にどう影響するか」、「ゲームと攻撃性の関係」について、先行研究のレビューと今後の課題をまとめたものを発表しました。3年次後期からは、卒業研究のテーマ、問題・目的、方法について検討を進めます。</p> <p><4年次></p> <p>各自のテーマに沿って卒業研究を進めます。ゼミでの発表や草稿提出を経て、卒業論文としてまとめます。</p>			
<p><最近の卒業論文のテーマ></p> <p>大学生における母親との友だち化、夫婦関係が子どもの主観的幸福感に及ぼす影響、学校現場における性の多様性に関する教育とその課題、精神障害への偏見や差別と家族関係の影響について、祖父母と大学生の孫の関係性についてのイメージ調査、大学生におけるあいさつの使用実態、若い子育て世代の育児不安と周囲からのまなざしの認識、親孝行と感謝・コミュニケーションについて、働く子育て世代への子育て支援、キャラのメリットとデメリットとストレスの関連、働き方からみる子育て支援の必要性、ヤングケアラーの現状と課題、母娘関係が娘の自尊感情に及ぼす影響</p>			
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>○ゼミは、自身の取り組み方次第で、これまで履修してきた講義や演習とはまた一味違った体験のできる場です。<u>充実した大学生活を送るためには、卒業時に達成感を味わうためには、ゼミでどのような活動をしていきたいか、どんなゼミにしていきたいか、まずは自分で考えてみてください。</u></p> <p>○ゼミでは、個人の卒業研究以外に、グループでの作業・活動も行います。他者の前で自分の意見を述べること、他者の考えに耳を傾けつつ考えること。これらのことが得意である必要はありませんが、ぜひ挑戦してみたい、取り組んでみたいという方の参加をお待ちしています。</p> <p>○私自身は、上記の研究課題以外にも、なぜ心理療法（セラピストとクライアントの関係性や対話）を通して、人の心が変容していくのかについても関心があります。また現在の主な臨床のフィールドは、病院臨床（精神科）と保育園です。人の心の深遠さ、不思議さについて皆さんと議論できるのを楽しみにしています。</p>			